

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年11月12日
【四半期会計期間】	第43期第3四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）
【会社名】	株式会社デジタルアドベンチャー
【英訳名】	Digital Adventure, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 斐 聖雄
【本店の所在の場所】	東京都港区芝四丁目5番10号
【電話番号】	03(6809)6118
【事務連絡者氏名】	管理本部長 大山 智子
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝四丁目5番10号
【電話番号】	03(6809)6118
【事務連絡者氏名】	管理本部長 大山 智子
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第42期 第3四半期 連結累計期間	第43期 第3四半期 連結累計期間	第42期
会計期間	自平成24年1月1日 至平成24年9月30日	自平成25年1月1日 至平成25年9月30日	自平成24年1月1日 至平成24年12月31日
売上高(千円)	3,182,493	3,230,614	4,409,050
経常利益又は経常損失() (千円)	59,818	314,400	138,768
四半期純利益又は四半期(当期) 純損失() (千円)	40,190	216,332	215,773
四半期包括利益又は包括利益(千円)	42,443	266,668	165,437
純資産額(千円)	2,550,966	2,026,596	2,347,355
総資産額(千円)	3,164,015	2,453,316	3,414,265
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期(当期)純損失 金額()(円)	0.74	3.98	3.97
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	76.9	79.8	65.2

回次	第42期 第3四半期 連結会計期間	第43期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額() (円)	1.15	1.24

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 第43期第3四半期連結累計期間および第42期における潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失金額が計上されているため記載しておりません。第42期第3四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式はありますが希薄化効果を有していないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当社グループ（当社および当社の関係会社）は、当社（株式会社デジタルアドベンチャー）、連結子会社2社および持分法適用関連会社2社により構成されており、当第3四半期連結累計期間において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

当第3四半期連結累計期間における、各セグメントに係る関係会社の異動は次のとおりであります。

（デジタルコンテンツ配信事業）

平成25年5月に株式会社アイロゴスおよび株式会社キントーンジャパンの2社の全株式を、同年6月に株式会社ドラゴンコンテンツの全株式の譲渡を行い、これにより第2四半期連結会計期間より連結子会社が3社減少しております。

（物販事業）

主要な関係会社の異動はありません。

（ライツ&メディアコミュニケーション事業）

主要な関係会社の異動はありません。

（その他事業）

平成25年8月に株式会社グローバルアクセスを事業清算し、これにより当第3四半期連結累計期間より連結子会社が1社減少しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当社グループは、前連結会計年度において8億42百万円の営業キャッシュ・フローのマイナスが発生しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況（重要事象等）が存在しております。

当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策は、「第2 事業の状況 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (6)事業等のリスクに記載した重要事象等についての分析・検討内容及び当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策」に記載しております。

なお、文中における将来に関する事項は当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権による円高の是正や株価の上昇を背景として企業の景況感が改善するなど、景気全般に明るい兆しが見えてきましたが、欧州の財政危機、新興国経済の減速など、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移しております。

このような経営環境の中、当社グループはグループ事業再編により、当社はアーティストマネジメントを中心としたエンターテインメント事業に集中して取り組んでおりますが、当第3四半期には大型イベントがなかったものの、前連結会計年度に購入した大型ドラマ著作権が事業化されたことにより、売上高は大きく伸びております。

一方、利益面については、当第3四半期において売上総利益、営業利益とも確保できたものの、累計では大型ドラマ著作権の償却負担を主な要因として原価が増加したことで、販売費及び一般管理費の削減に努めたものの営業損失となっております。また、ストック・オプションの権利行使期間満了による権利失効により、特別利益として新株予約権戻入益を計上しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は32億30百万円（前年同期比1.5%増）、営業損失2億90百万円（前年同期は営業利益33百万円）、経常損失3億14百万円（前年同期は経常利益59百万円）、四半期純損失2億16百万円（前年同期は四半期純利益40百万円）となっております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（デジタルコンテンツ配信事業）

デジタルコンテンツ配信事業は子会社に事業が集約されておりましたが、平成25年5月に連結子会社の株式会社アイロゴスおよび株式会社キントーンジャパンの全株式を、同年6月に株式会社ドラゴンコンテンツの全株式を譲渡しております。

この結果、売上高は2億28百万円（前年同期比59.3%減）、セグメント利益は5百万円（前年同期比89.8%減）となっております。

（物販事業）

所属アーティストの関連グッズやCD販売は好調だったものの、イベントが台風のため第4四半期に延期となったことなどによりイベントグッズの売上が少なかったこと、また前連結会計年度において連結子会社であった株式会社日本ブレイス（旧株式会社ザ・ネット・プラン）が持分法適用関連会社になったことに伴いセグメントから除外されたことにより、売上高は4億7百万円（前年同期比54.0%減）、セグメント利益は49百万円（前年同期比66.6%減）となっております。

（ライセンス&メディアコミュニケーション事業）

8月に台湾俳優のジェリー・イエンが「ジェリー・イエン ファンミーティング 2013「gift」」を開催、前連結会計年度に始動しました新人育成プロジェクト第1弾として、日韓ハイブリッドアイドル「シャッフルオーディション」ファイナリストが来年1月に「BEE SHUFFLE」としてメジャーデビューが決定するなど、引き続き新規案件に積極的に取り組んでまいりました。自社テレビ局「DATV」では、7月からひかりTVでの番組提供が開始しております。また、前連結会計年度に購入した大型ドラマ著作権のDVD等での事業化により、売上高は大きく伸びております。

利益面では、第2四半期までに著作権の償却負担により原価が増加しており、この結果、売上高は25億94百万円（前年同期比76.4%増）、セグメント損失は3億45百万円（前年同期はセグメント損失1億41百万円）となっております。

（その他事業）

前連結会計年度において連結子会社であった株式会社日本ブレイス（旧株式会社ザ・ネット・プラン）が持分法適用関連会社になったことに伴い、セグメントから除外されたことにより、売上高は1百万円（前年同期比99.6%減）、セグメント損失は0百万円（前年同期はセグメント損失30百万円）となっております。

（2）事業上および財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

（3）研究開発活動

該当事項はありません。

（4）従業員数

当第3四半期連結累計期間において、連結子会社の株式会社アイロゴス、株式会社キントーンジャパンおよび株式会社ドラゴンコンテンツの全株式を譲渡したことに伴い、デジタルコンテンツ配信事業において対前連結会計年度末に比べ従業員が13名減少しております。

（5）経営成績に重要な影響を与える要因および経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、経営成績に重要な影響を与える新たな要因等は発生しておりませんが、第2四半期連結会計期間において連結子会社の株式会社アイロゴス、株式会社キントーンジャパンおよび株式会社ドラゴンコンテンツの3社の全株式を譲渡しております。これにより当社グループ事業は更にエンターテインメント事業へシフトしております。当第3四半期連結累計期間は、第2四半期連結会計期間において大型著作権の償却負担を主な要因として原価が増加しておりますが、今後は著作権事業の収益モデルを構築していくことで収益改善を図ってまいります。

当社グループが対処するべき課題の解決に努めるとともに、適切な事業投資の判断により財務体質強化を図ってまいります。

（6）事業等のリスクに記載した重要事象等についての分析・検討内容及び当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策

当社グループは、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、これは、前連結会計年度における大型ドラマコンテンツ著作権の取得による前渡金の増加が主な要因であります。当社は当該状況を解消すべく著作権のDVD等事業化を進めた結果、当第3四半期連結累計期間において、著作権の事業化を概ね実現し、投資回収をいたしました。またD A T Vの加入者増加による収益改善を見込んでいることなどから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	54,392,638	54,392,638	東京証券取引所 JASDAQ (グロース)	単元株式数 1,000株
計	54,392,638	54,392,638		

(注) 提出日現在の発行数には、平成25年11月1日からこの四半期報告書提出日までの間に、新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年9月30日	-	54,392,638	-	3,999,492	-	-

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 78,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 54,197,000	54,197	
単元未満株式	普通株式 117,638		
発行済株式総数	54,392,638		
総株主の議決権		54,197	

(注) 「単元未満株式」欄には、自己株式876株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株デジタルアドベンチャー	東京都港区芝 四丁目5番10号	78,000	-	78,000	0.14
計		78,000	-	78,000	0.14

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	795,051	957,205
受取手形及び売掛金	386,258	427,844
コンテンツ	16,787	1,263
商品	25,124	16,848
仕掛コンテンツ	25,251	-
前渡金	1,236,354	254,125
短期貸付金	-	500,000
その他	30,135	55,268
貸倒引当金	623	694
流動資産合計	2,514,339	2,211,860
固定資産		
有形固定資産	20,768	14,837
無形固定資産		
のれん	32,631	9,377
その他	56,193	41,968
無形固定資産合計	88,825	51,345
投資その他の資産		
その他	902,599	267,548
貸倒引当金	112,266	92,277
投資その他の資産合計	790,333	175,271
固定資産合計	899,926	241,455
資産合計	3,414,265	2,453,316
負債の部		
流動負債		
買掛金	345,886	227,340
短期借入金	100,000	-
その他の引当金	6,426	6,287
その他	581,868	192,207
流動負債合計	1,034,181	425,835
固定負債	32,728	884
負債合計	1,066,910	426,719
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,999,492	3,999,492
利益剰余金	1,792,464	2,008,796
自己株式	32,387	32,403
株主資本合計	2,174,640	1,958,292
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	50,335	-
その他の包括利益累計額合計	50,335	-
新株予約権	122,379	68,304
純資産合計	2,347,355	2,026,596
負債純資産合計	3,414,265	2,453,316

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)
売上高	3,182,493	3,230,614
売上原価	2,462,601	3,067,391
売上総利益	719,892	163,223
販売費及び一般管理費	686,645	453,861
営業利益又は営業損失()	33,247	290,638
営業外収益		
受取利息	3,370	11,354
為替差益	9,429	-
持分法による投資利益	12,673	-
貸倒引当金戻入額	-	4,000
その他	1,190	2,085
営業外収益合計	26,664	17,439
営業外費用		
支払利息	62	521
出資金運用損	-	15,790
持分法による投資損失	-	13,753
為替差損	-	11,108
その他	29	28
営業外費用合計	92	41,201
経常利益又は経常損失()	59,818	314,400
特別利益		
投資有価証券償還益	-	103,941
新株予約権戻入益	1,301	64,074
特別利益合計	1,301	168,106
特別損失		
固定資産除却損	10,489	1,095
減損損失	4,626	3,988
関係会社株式売却損	-	58,493
その他	3,294	47
特別損失合計	18,410	63,624
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	42,710	210,008
法人税、住民税及び事業税	4,159	6,323
法人税等調整額	1,640	-
法人税等合計	2,519	6,323
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	40,190	216,332
四半期純利益又は四半期純損失()	40,190	216,332

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	40,190	216,332
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,252	50,335
その他の包括利益合計	2,252	50,335
四半期包括利益	42,443	266,668
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	42,443	266,668

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第2四半期連結会計期間において、株式会社アイロゴス、株式会社キントーンジャパン及び株式会社ドラゴンコンテンツの株式を譲渡したため、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
減価償却費	36,317千円	19,088千円
のれんの償却額	16,834	15,242

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	デジタル コンテンツ 配信	物販	ライセンス &メ ディアコミュ ニケー ション	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	560,506	885,525	1,470,237	2,916,269	266,224	3,182,493
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	-	-	-	-	1	1
計	560,506	885,525	1,470,237	2,916,269	266,226	3,182,495
セグメント利益又は 損失()	57,239	147,840	141,833	63,245	30,914	32,331

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲食事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	63,245
「その他」の区分の損失()	30,914
セグメント間取引消去	915
四半期連結損益計算書の営業利益	33,247

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注2)	合計
	デジタル コンテンツ 配信	物販	ライセンス &メ ディアコミュ ニケー ション	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	228,269	407,116	2,594,166	3,229,552	1,062	3,230,614
(2) セグメント間の内 部売上高又は振替 高	-	-	-	-	0	0
計	228,269	407,116	2,594,166	3,229,552	1,063	3,230,615
セグメント利益 又は損失()	5,854	49,324	345,145	289,965	759	290,725

(注) 1. 第2四半期連結会計期間において、「デジタルコンテンツ配信」に含まれていた株式会社アイロゴス、株式会社キントーンジャパン及び株式会社ドラゴンコンテンツの株式を譲渡し、連結の範囲から除外しております。

2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	289,965
「その他」の区分の損失()	759
セグメント間取引消去	87
四半期連結損益計算書の営業損失()	290,638

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	0円74銭	3円98銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	40,190	216,332
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	40,190	216,332
普通株式の期中平均株式数(千株)	54,314	54,314

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式はありますが希薄化効果を有していないため記載しておりません。また、当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額が計上されているため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成 25年11月 12日

株式会社デジタルアドベンチャー

取締役会 御中

三優監査法人

代表社員 公認会計士 古藤 智弘 印
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 増田 涼恵 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社デジタルアドベンチャーの平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社デジタルアドベンチャー及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。